

# GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

2009.2/1  
Vol.

8

ガバナー月信

2008～2009年度 国際ロータリー第2650地区テーマ「次の世代にときめきを」



## 目次 ● CONTENTS

ガバナーメッセージ .....	2
ガバナー補佐随想 .....	3
2月の月間テーマ .....	4
12月の会員の動き .....	6
12月会員数の増減および出席率表 .....	7



(公式訪問覚書)

## 死に甲斐のある終の栖

川 端 五兵衛

地域社会に生きる住民としてのロータリアンに問われるもの、それは終の栖のまちづくりである。

私はガバナー就任以来、2650 地区のテーマを「次の世代にときめきを」と定め、「死に甲斐のある終の栖のまちづくり」こそロータリアンの使命であると訴えて続けてまいりました。つまり、次の世代を担う人たちが社会不安に脅かされることなく、常に将来に向かってときめきを覚えることができる環境を残すことが私たちの使命であり、真のまちづくりであるとしたのでした。そしてその結果、世界の隅々に至るそれぞれの地域社会に小さな幸せの花が咲き乱れ、実を結び、人々の顔が活き活きと輝き、人々をして生涯をここで終えてもよいとするようなまちを築き上げることを、死に甲斐のあるまちづくりと定義づけたのでした。

さて、うさぎ追いしかの山・・・で始るご存知の童謡「故郷(ふるさと)」は最終章で「志を果たして何時の日にか帰らん」と唱い、山青く水清きふるさとに思いを寄せ、故郷に錦を飾る日を心に秘め日々の励みとしています。また山口県(周防)出身で勤王の志をもっていた僧釈月性は大阪に旅立つに際し、壁に詩を書き残しました。その漢詩「将東遊題壁」(まさに東遊せんとして壁に題す)で彼は「男兒志を立てて郷關を出づ 学若し成る無くんば死すともかへらじ」(志を立てて故郷を出立したからには、学問がもしも成就することが無ければ死んでも帰って来ない)と決意を述べ、「骨を埋むるに何ぞ期せん墳墓の地を 人間到る処に青山有り」(骨を埋める場所はどうして先祖の地であることを望もうか。人間には至る処に墓所とすべき青山があるのだ。)と断じています。

・・・・・読者の中には、高校時代の漢文の時間になつかしく思い出された方も居られることと存じます。

移動のはげしい現代社会に在っては、生れ故郷を離れて仮りの住居のつもりが終の栖になる事もままあることです。人は死を迎える時、始めて今住んでいるこの土地が「青山」即ち死に場所である「終の栖」となることに気付き、改めてこれまでその様な覚悟をもって日常を送ってきただろうかと振り返るのであります。

若しその時に臨んで、ほんの一瞬であっても「こんなまち

で人生を終えるなんてそんな筈じゃなかった」といった思いが胸を横切ったとすれば、たとえ 100 才迄長寿を保ちこれ迄の長い人生の中で「生き甲斐や働き甲斐」を感じて来たつもりであっても、一瞬にして全てが無意味になってしまうのです。それは、人生の総括である死に甲斐をものすることが出来なかったからの一言に尽きます。人には皆等しく死を迎える場所は、只の 1 ヶ所しか与えられません。このかけがえのない人生最後の地である「終の栖」に誇りも愛情も抱く事なく終焉を迎えたとすれば、これ程の不幸はないでしょう。しかし残念ながらこの事に気付く人は少ないのです。つまり死に甲斐が生き甲斐や働き甲斐と異なり、唯一属地性を持つことです。云い換えれば、日常に在って自らの属する地域社会の存在を、自らの意識の中にどう位置づけているかが問われている、と言っても過言ではありません。

その為には今在る場所を常に吾が青山とする覚悟を持つことこそ、何ものにも代え難い死に甲斐の条件となるのではないでしょうか。

私はこの「死に甲斐」は、宗の時代の朱新仲の残した「生計」に始る教訓「人生の五計」の最終章にある「死計」と相通ずるものがあると考えました。即ち次の世代に命をつなぐことを意味するのだと。命をつなぐとは、申すまでもなく私たちが理想とするるべき社会の実現への切なる思いを、次の世代に託すことに他なりません。次の世代を担う若い命を自分の命の継ぎだと思えば、このことを私たちの死に甲斐とすることに何のためらいも無い筈です。紅葉が自ら命を次なる若葉に託して散る様子。

熱い血潮がたぎる若い命は、夢を口マンをしてときめきを求めています。彼らにとってそれらは生き甲斐や働き甲斐の源泉なのです。

そんなときめきの環境を残す為には、今を生きる私たちは先ず日常のすべての営みにおいて倫理観に裏打ちされた生き様を示すことから始めねばなりません。

いわんや職業奉仕、つまり自らの生業を通して地域社会への奉仕を使命とするロータリアンに於てをやであります。

かりそめにも世界平和を究極の目標とする我々ロータリアンにとって、地域のまちづくりは、未だほんの入口に過ぎな

いのです。世界平和は、そのずっとずっと先に在ることを知らねばなりません。

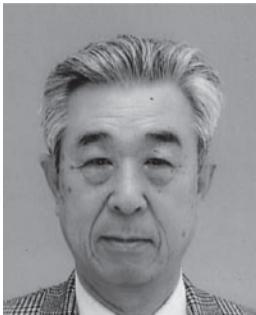
元 RI 理事の渡辺好政さんのロータリーの木にこと寄せて総括すれば、ロータリーの木を育てるということは、住民の一人として、まちづくりという地域の根っ子を養い、また職業人として他に恥ずることのない倫理観に磨かれたゆるぎない生業の幹を太らせ、そこから広く社会にやすらぎの木陰を作ります。

作る枝葉を繁らせ、その結果として世界平和の花や実をつけることを期するものなのです。

産官学民すべてのジャンルに亘る幅広いメンバーで構成されるロータリーはまちづくりの最強の集団であります。

どうか皆さんの地域のまちづくりこそロータリアンとしての「貴方の死に甲斐」として下さい。そして貴方の命のつづきを生きる次の世代の人達の心をときめかせてやって下さい。

## ガバナー補佐隨想



### “3期目のガバナー補佐として感じた事”

高倉信正

(綾部 RC)

ガバナー補佐は3年間の任期を務めることが望ましいと言われているが、果たしてその事が是か非かを考えさせられた2年半でした。

特に、補佐としての仕事がトップとして責任をもって行なう作業が少なく、アドバイザーや代理出席等何となく出席し、一言だけお話をしても自分の名前を各クラブの皆様に知っていただきてお見送りを受けながら退去することが殆どでした。確かに経験を基礎にしながら色々と皆様に説明するのもいいですが、会員それぞれ年数や知識に差があり説明用語をカタカナではなく、日本語でお願いしますと言われる方や、そんなことはよく知っている、今回の規定審議会で変更になった事だけを説明して下さいと「手続要覧の鬼」と云われる知識の豊富な方もあり対応の難しさを実感致しました。

新入会員研修や部門別の研修の様にテーマを絞りますと話がやり易くなり、もう少し実のある内容や判り易い説明が出来たと反省しております。いづれにしてもその時、その時テキパキと対応が出来たのか心残りが多い日々でした。

次に各クラブに公式訪問させて頂く度に会員数の減少、特に若い入会者が少ないとの悩みを聞き、京都北部に於ける各クラブの弱体化並びにロータリークラブ組織そのものの衰退を表すものとして心苦しいものがあります。

結論をいえば会員数が半減したとも云える状況になっております。理由は色々と考えられます。会費が高い、週1回の例会出席が約束出来ない、会員の人達とのコミュニケーションが取り難い等色々なことが云えると思いますが、最大の原因是経済状況の悪化によることが大きいと感じています。外国や日本の他地区のことを見たり聞いたりしますと、

食事を済まして例会に来る人（食事の必要な人のみ当日食券を買っていました。結果としてクラブ会費は予想の半分です。）又奉仕の為の事業費が当地区の1/2とか1/3の予算で行なわれている地区もあり、参加し易いクラブにすればいいと思います。しかしながら「ロータリーに魅力がありますか」と地域の人々に感じて頂くことが重要ではないかが大切です。私が入会させて頂いた35年前は、私自身推選して頂いた事に驚きと同時に自分自身が有資格者であるのか考えさせられ、しばらくは返事を保留とさせて頂きました。当時のロータリアンは各人が読み難い手続要覧を読み、そして解釈をしながら皆でディスカッションをしながらクラブの運営をされておられました。チャーチメンバの方々は情報としてRI出版の英文「ザ・ロータリアン」を読みクラブにフィードバックされておられました。

私もクラブの幹事になった時には手続要覧を全ページ3回以上、目を通しなさいと先輩会員に教えられました。今考えてみるとに当時に比べて、ロータリーの色々な規定がゆるくなり、単なる仲良しクラブになって来た様に感じます。「奉仕の理想」を高く掲げメンバー各人の人格向上を謳っている以上、ロータリーとしてのプログラムの原点を見据えて会員各々が考え直す時が来たのではないかと思っております。そして、私の夢として担当している京都北部の各クラブが全て50名以上の会員数となり、その地域での存続価値が認められれば幸いであります、私の希望がその点にあります。

是非、会員皆様のご協力により私の夢が実現するようにお願い致します。



## “国際交流を通じて世界理解を”

ロータリー国際交流委員会

委員長 中窪 啓司

(平城京 RC)

こんにちは。

ロータリーにおける国際交流の主役はロータリアンであるあなた自身です。これから私たちが取り組んでいるプログラムをご紹介させて頂きますので、ご理解頂いた方、興味のある方は是非、そのプログラムに加わってください。そして、せっかく世界に広まったロータリーですから、その組織を活かして、国際交流を通じて世界を理解して、これからのロータリー人生の糧にして頂き、更に国際間での奉仕プロジェクトに発展させて頂きたいと考えております。

まず、ロータリー国際交流委員会の主たるプログラムである友情交換プログラムを紹介致します。

このプログラムは、数組のロータリアン自身とその家族が他の地区のロータリアン家族と互いに訪問し合い、ホームステイを通じて互いの国や地域を理解し合い国際平和を推進するものです。(具体的には相手地区のクラブの例会はじめ会合に出席したり、ロータリアンの企業を訪問したり、奉仕事業に参加したりするものです。) 今年度は、カナダのカルガリーを中心とする RID5360 との友情交換プログラムを実施しております。(参加者 7 名)

今まで 5 回に渡り友情交換プログラムに参加させてもらいましたが、いつも興味を持っているのは、相手のロータリアン家族の生活習慣の他、地区のあり方、各クラブの例会や奉仕活動の内容、またロータリーをどのように位置付けているのかであります。

ところ変われば品変わるではありませんが、ロータリーも様々です。その中で学ぶべきところを自分のロータリー人生に活かしたいと考えております。今までの少ない経験の中で印象にあるのは次のようなことです。

1 つはロータリーの会費ですが、日本で大抵年 2 期に分けて、半期で約 20 万円近くの金額を収めて

いるのではないかと思いますが、国、地域によっては地区等へ収める金額だけを会費としているところがあり、ニュージャージー RI7490 地区では年間、会員は 200 ドル程度と聞いて驚きました。例会時の食事代等はその都度、出席者から徴収していました。例会場も日本のようにホテル等で行うところは少なく、地元のレストラン等を利用しているところが多いようです。例会時の服装も日本のように基本的にネクタイ着用ではなくラフなスタイルのロータリアンが大半です。日本のニコニコも委員長が読み上げるのではなく、委員長がニコニコ BOX をもって各テーブルを回り、寄付する会員が自らユーモアを交えて、嬉しい事等を披露し、ドネーションを行います。これによって会場が大変盛り上がります。会員構成も日本と異なり女性が多く、しかもクラブでもリーダー的な立場の方が多いということです。日本でも徐々に女性会員が増えて来ていますが、まだまだ少ないように思います。日本では近年不況を理由に大企業勤務のロータリアンの退会が目立ちますが、外国では例えば銀行等では支店長でなくてもマネージャーか誰かがロータリークラブに所属しなければならないシステムになっているそうです。それは企業の社会的責任ということを重んじているからです。そしてビルゲイツのロータリー財団への 2 億ドルの寄付に限らず、他の企業からも高額な寄付がなされています。日本のロータリーは立派な奉仕活動も沢山しておりますが、どうしても社交の場としてとらえがちで、以上述べたような形式主義的な性格が出てくるのだと思います。従って、大企業から見ればロータリーは“無駄”なものとしてとらえがちで、余裕がなくなれば退会するということになるのだと思います。外国のロータリーではロータリーを純粋に奉仕活動を目的とするものととらえています。それが日本のロータリーとの違いとなつて表れてくるのだと思います。

日本のロータリーは不況の今こそ、その目的を奉仕に重きを置いて、無駄金を使わずロータリーの社会的責任を果たしていくべきではないかと思います。企業も自らの社会的責任を大いに自覚し、支店長でなくても奉仕できる人材をロータリーに送り込んで頂きたいと考えます。そして会社に



## 2月の月間テーマ

おいてもロータリーにおいても、職業奉仕の原点である互助の精神を実践して頂くことを望んでいます。

また当委員会では姉妹・友好提携推進プログラムを行っております。具体的には3年に1度程度地区内全クラブの姉妹・友好提携の状況を調査し、未提携クラブに提携を推薦しております。

現在、ハワイ5000地区と地区自身が地区同士の友好提携を行ない様々な交流事業を行っております。

まず両地区間でクラブ同士の姉妹・友好提携の実現を目指して活動しております数クラブで検討しておりますが今年度は是非、実現して頂きたいと考えております。また、青少年の休暇を利用して、短期青少年交換プログラムを実施しております。RI2650地区からは今年度は2回目になりますが、夏休みを利用して約1ヶ月間、3名の青少年（宮城妙由子さん（栗東RC）、山口薰子さん（京都紫野RC）、早川浩史君（福井フェニックスRC））を派遣致しました。その選考に当っては私の不徳の致すところにより、応募頂いた方には大変御迷惑をお掛けした事をこの紙面をお借りしてお詫び申し上げます。ただ、派遣した青少年が大変逞しくなつて帰国し、父兄の方からも是非継続して欲しいとの話を聞いて、安堵した次第です。

さらに両地区で互いに相手の地区大会に参加することを行っております。ハワイRID5000の地区大会は日本のそれとは大いに異なるものでした。大会は4日間あるのですが、途中で帰る人は殆んどありませんでした。そして内容も例えば、本会議での奉仕部門の表彰もクラブを会員数に応じて大、中、小に分け、各グループ毎に、また各奉仕部門毎に順位を発表し、最後にその年のベストクラブを発表するもので、さながら奉仕のコンテストであり、大いに会場が盛り上がりました。そして、最後に全員でダンスを踊り楽しみました。次の日は夕方からビーチで開催され、ガバナーやスタッフの家族も壇上でのスピーチもあり、アットホームなものでした。今年度のハワイでの地区大会ではゴルフ以外に野球の両地区的親善交流試合の提案もあり、是非実現したいと考えております。その他インタークトクラブの提携の動きもあり

期待しております。

その他当委員会では国際大会推進委員会への協力も行っています。具体的には11月の国際大会説明会と国際大会での地区的親睦夕食会での協力です。

国際大会こそRIの最も大きな行事であり、世界中のロータリアンが集まります。そしてRI会長のスピーチが直接聞けることも魅力ですが、友愛の広場では世界中のロータリアンがどのような奉仕活動を行っているのか知ることが出来、奉仕活動の参考になります。また新しいロータリアンの知り合いが出来たり、知り合いのロータリアンと再会することもあります。

以上、当委員会のプログラムを紹介しましたが今後、国際交流のプログラムをRID2650の会員の皆様に御案内させて頂きますので是非、御参加頂きたいと思います。

今年は4月のハワイRID5000からの受入れ、同月、友情交換プログラム、カナダRID5360チーム受入れ（未定）、5月のハワイの地区大会、6月のバーミンガムでの国際大会、6月のハワイ青少年受入れ、8月の青少年のハワイ派遣、10月友情交換プログラムスペインRID2201訪問（未定）を計画しております。

興味あるプログラムがあれば是非、当委員会までお問い合わせください。



### 国際ロータリー第2650地区 ガバナーエレクト(2009-2010年度ガバナー)事務所

京都市下京区塩小路通烏丸西入東塩小路町614番地 新京都センタービル5階520号室 ☎ 600-8216

TEL:(075)343-2650 FAX:(075)343-2651 AM9:00~PM5:00(土・日・祝日休)

URL: <http://rid2650elect.com> E-MAIL:gov09-10@rid2650elect.com



## “青少年交換プログラム”

青少年交換委員会  
委員長 楠 滋夫  
(亀岡中央 RC)

2650 地区の青少年交換委員会の活動も 38 周年を迎えることとなりました。多くのロータリアンの努力によって素晴らしい成果を挙げさせて頂いております。昨年度の受入学生が来日してそして、派遣学生が行って 4 ヶ月が経ちました。2650 地区に来ている学生達は日本語が少しずつ話せるようになっており、また派遣学生達も毎月送ってくるマンスリーレポートの様子で頑張っているようです。今年度の派遣学生の選考会も平成 20 年 10 月 7 日に行いました。ここ数年受入クラブの減少とホストファミリーが限られた方に偏ってしまう等により、クラブ自体が青少年交換プログラムに参加されなくなってしまう現象が起こって、私達委員会においても残念な限りです。交換学生は 1 年間のプログラムを派遣国でがんばっているわけですが、彼らはホストクラブ、ホストファミリーにそして現地の高校でお世話になります。しかし、始めは全てが初めての経験で戸惑うばかりで、意思疎通ができなく自分の殻に閉じこもってしまうこともあると思います。帰りたいとか、もっと勉強をしておけばよかったとか、色々な事が思い浮かぶようです。そんな時に学生自身がその状態からどのように抜け出せるかが大事だと思います。私達はいつも彼らの歓送会の時に言う事があります。それは「感謝の気持ちを忘れないで」、「笑顔を忘れないで」そして「自分自身を信じること」と言って送り出しま



す。彼らは辛い事や悔しいことを乗り越えて 1 年間をがんばり、最後に大きな喜びをもらって大きく成長して帰国します。毎年派遣学生の帰国報告で私達がいつも感じている事は、他国で一年間勉強して帰国した学生の精神的な成長は目を見張るものがあります。その事が、私達委員会にとっての最高のお土産で最高の喜びです。是非、皆様にも帰国報告会には参加して頂きたく思います。その場面を見るとこの青少年交換のプログラムが素晴らしいものだと感じて頂く事ができると思います。

このプログラムが RI の公式プログラムになってから 38 年が経ちました。世界には、数え切れないほどのこのプログラムを経験した学生がいることでしょう。また、その学生が大人になり、地域社会において指導者としての役割を果たすようになると、青少年交換における経験の成果が、その役割の中で生かされていると思われます。そして、ロータリアンになっている子も沢山いると思います。世界平和を永続させる重要な鍵を握っているのは若い人達です。

この青少年交換プログラムを通して、文化をこえた一つの小さな友情が異文化への理解を深め、世界平和へつながっていく事を私は確信しています。今後とも、この青少年交換プログラムにご理解とご協力をお願い致します。



## 会員の動き

### ◆新入会員

京都洛中	河本 泰行	税理士
京都西北	藤本 誠	建築内外装工事
京都伏見	坂本 裕之	ホテル
京都伏見	全 永奈	旅行業
京都北東	三浦 照章	美術印刷
京都南	下 嘉明	材木・新建材販売
京都南	山本 尚樹	水道工事
京都伏見	人見 康裕	配管材料卸売

王寺	中西 達也	弁護士
敦賀西	多田 伸一郎	歯科医
敦賀	池田 博	原電事業サービス
若狭	杉本 則幸	電気事業
八日市南	吉見 昭浩	外装工事
大津	前田 真宏	生命保険
滋賀湖北	笛木 順治	日本料理

### 弔慰

謹んでお悔やみ申し上げます



若狭 RC



武生 RC



大和高田 RC



京都モーニング RC

10月30日 ご逝去  
75才

11月1日 ご逝去  
69才

11月15日 ご逝去  
78才

12月17日 ご逝去  
59才



## 2650地区の情報満載! http://www.rid2650.gr.jp/ ~08-09年度地区ホームページ~

国際ロータリー第2650地区のホームページをご覧になっていただけでしょうか。

08-09年度のホームページが公開されています。

地区的概要・組織、地区内クラブ、年間行事予定、例会変更情報、ダウンロードセンター等々、ロータリーの様々な情報を公開しておりますので是非ご覧下さいませ。

また07-08年度に引き続き、「月信α(アルファ)」のサイトも新しく開設いたしました。各クラブ公式訪問の報告や委員会報告、各会議報告等も随時更新し地区内の情報を皆様に公開させていただきます。また、クラブ奉仕活動等も公開させていただきますので、原稿・記事・写真の投稿をお待ちしております。

原稿・写真はガバナー事務所までお問い合わせ下さい。

広報・月信地区幹事 一伊達(事務局 筑摩)まで



## 文庫通信

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリーケンの貴重な文献や視聴覚資料など、2万余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

### 地区大会記念講演より(254号)

- ◎「私の考える経営」伊藤謙介 2008 8p (D.2690)
- ◎「構造改革とこれからの日本経済」竹中平蔵 2008 8p (D.2660)
- ◎「日本のこれから、日本人のこれから」藤原正彦 2008 8p (D.2580)
- ◎「津波が変えた私の人生」道下俊一 2008 10p (D.2780)
- ◎「命を地域で支えるあたたかな人と人とのつながりをつくろう」  
鎌田 寛 2007 15p (D.2550)
- ◎「未知への挑戦～箱根駅伝・アテネオリンピックなどを振り返り」  
澤木啓祐 2008 13p (D.2510)
- ◎「メジャーリーグに学ぶ経営戦略～日本人の知らないメジャーの常識と人づくり」タック 川本 2008 20p (D.2790)
- ◎「薩摩の郷中教育と薩摩焼」西郷隆文 2008 16p (D.2690)

[上記申込先: ロータリー文庫(コピー/PDF)]

◎「ロータリーモザイク」ハロルド T.トマス著 松本兼二郎訳 2006 329p

...50年間のロータリーライフに基づき、一人のロータリアン(元RI会長)が綴った1905~1970年までのロータリーの思想・方針とプログラム、そしてロータリアンのそれぞれの進化の物語です。彼は「ロータリーはロータリアンすべての参加によって初めて出来たものである」と述べています。本書を一読することにより、全てのロータリアンに与えられているロータリー運動への参加の機会と可能性と期待とがはっきり認識できるでしょう。

[申込先: ロータリー文庫 領価 1500円]

### ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階 TEL(03)3433-6456・FAX(03)3459-7506 http://www.rotary-bunko.gr.jp  
開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日



Kyoto/Nara/Fukui/Shiga  
R.I.D.2650  
2008-2009

### 国際ロータリー第2650地区

2008-2009年度 ガバナー 川端 五兵衛

■ガバナー 事務所

〒523-0892 滋賀県近江八幡市出町413-5

Tel.0748-31-2650 Fax.0748-31-2651

E-mail:gov08-09.2650@joy.ocn.ne.jp